

## 共に歩む 熊本地震から10年

2016年4月に発生した熊本地震から10年。熊本YMCAは益城町総合運動公園と御船町スポーツセンターにおける避難所運営や地域支援に携わってきました。多くの団体や地域の方々と共に歩んだ経験を礎に、これからも防災・減災の取り組みを進めます。



### 熊本地震が示した官民連携の力

特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク  
樋口務

震度7が短期間に二度発生するという前例のない熊本地震は、地震の発生確率が非常に低いとされていた地域での出来事だったことが、私たちの防災意識に大きな影響を与えました。熊本地震では災害支援における官民連携により、NPO等の支援活動の災害時における役割の重要性が認識され、官民連携の全国的なモデルとしてクローズアップされました。

また、熊本YMCAが運営に関わる益城町総合運

動公園と御船町スポーツセンターは直後から避難所となり、避難所の閉鎖後も、益城町木山仮設団地と御船町木倉地区仮設団地の「地域支え合いセンター」で、中長期にわたって住民を見守り、新たなコミュニティの形成に取り組んでおられました。

今でも、益城町では総合防災訓練を地域住民や警察、消防、自衛隊など国、県を含めた関係機関等が総参加して毎年行われています。熊本地震を教訓として避難所を開設する訓練では、建物に被害がないか確認した後、地元の住民などが協力して簡易ベッドや仕切り板を設置したり避難者を受け入れるまでの流れを実施し、熊本YMCAが

運営した避難所の経験が活かされています。

※くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD)・・・災害支援と持続可能な復旧・復興のコーディネートを担い、関係組織の連携強化および人材育成を図る団体



益城町での防災訓練



### 寄り添う活動と防災教育

益城町総合運動公園所長  
大久保和生

益城町総合運動公園の指定管理を行う熊本YMCAは地震直後の避難所運営をはじめ、行政、医療機関、福祉関係者、NPO等の専門家団体、企業、ボランティアと協働しながら、「益城町の方と共に」を合言葉に、寄り添う活動、いのちを大切にすることを実践しました。現在もその関係性を大切にしながら、復興はまだ道半ばであることを胸に刻み、この経験を未来へと継承していくこと、そして今後の防災・減災に向けて多様な団体

と協力し、共に学び合いながら備えを万全にしていくことを使命としています。

私たちは伴走者として地域と人々に寄り添い、形ある復興だけでなく「心の復興」に向けて歩み続けます。昨年度、実施した防災キャンプでは、益城町と御船町の子どもたちと共に避難所設営を体験しました。熊本地震を経験していない世代にも、「忘災」にならないよう、防災教育の機会としてキャンプの開催や、大規模な大会・行事での熊本地震関連ブースの設置などの取り組みも継続します。4月12日(日)には、益城町総合運動公園で多くの支援者と協働し、防災を学ぶ機会を提供

します。私たちは、これからも人と人をつなげるハブとなり、皆さまと共に、より良い未来へ向けて歩みます。



子どもたちとの防災キャンプ



### 支え合いの中で築かれた信頼

御船町スポーツセンター所長  
福山裕敏

私が最も大切にしたいのは、地域住民の皆さんや行政との「信頼関係」です。本震の日の早朝、私が勤務する御船町スポーツセンターは、発災当初指定避難所ではなかったのですが、急遽、二百数十名の被災者をロビーや廊下に受け入れ、避難所運営がスタートしました。約5カ月間、非常に厳しい避難所運営でしたが、御船町役場、災害支援団体、ボランティア、そして災害支援の経験を持

つ全国のYMCAと共に運営を全うすることができました。そして何より、避難所で過ごされた町民の方々との信頼関係が大きな支えとなりました。

避難所運営が始まったばかりのころ、避難されていた方から「体調は大丈夫なのか？」と気遣っていただけた時、頑張る皆さんを支えなければと強く思ったことが忘れられません。災害支援や避難所運営は、ノウハウも必要ですが、互いを信じあえる関係こそ力になります。今後、災害が起こった際に、「御船町スポーツセンター(YMCA)が頼れる存在だ」と思っていただけのように、日々の施

設の運営や活動を通して町民の皆さんや御船町との信頼関係を育んでいきたいと考えています。



熊本地震後の避難所運営の様子

# 2026年度 YMCAでみつける。つながる。よくなっていく。

YMCAのプログラムや学校、園に通う皆さんに2026年度にやりたいこと、目標を聞きました。



上田 麻依子さん

本館／グローバルコミュニティセンター  
英会話 高校生クラス在籍生

幼稚園から英語をがんばってきました。高校生になったので更にレベルアップします！



杉山 佳穂さん

ながみねファミリーセンター  
書道教室在籍生

書道教室で習ったことを活かして、学校などで丁寧に字を書くことを頑張りたいです。



重久 怜未さん (星芋リーダー)

東部グローバルコミュニティプラザ  
ユースボランティアリーダー

子どもたちと喜怒哀楽を共に分かちあい、思い出をたくさんつくる！



春田 香奈さん

本館／グローバルコミュニティセンター  
英会話と世界のことは受講生

YMCAでドイツ語を勉強しています。旅行先で英語の大切さを感じ、今年から英語も始めました。



杉山 彰浩さん

ながみねファミリーセンター  
サッカースクール在籍生

サッカークラスの最上級生として、低学年の人たちに声をかけてチームを引っ張っていききたい。



(写真左から)  
山本 綸弥さん・眞鍋 匠さん

東部グローバルコミュニティプラザ  
プログラミングスクール 在籍生

ジュニアプログラミング検定1級目指して頑張ります！



渡辺 華鈴さん

むさしグローバルコミュニティセンター  
チアダンス教室在籍生

最年長としての自覚を持ち、技術も気持ちもみんなをリードしていきます！



(写真左から)  
福島 充貴さん・至堂さん

ぶどうの木体育英語幼児園  
園児

自分の大好き、ちょっと苦手を見つけて家族、お友だち、先生と一緒に成長していきたいな。



(写真左から)  
福田 祥太郎さん  
福田 蓮太郎さん

みなみグローバルコミュニティセンター  
体操・水泳教室在籍生

祥太郎さん

3月にYMCA水前寺幼稚園を卒園しました。4月からもYMCAのプール・体操をがんばります。水泳はクロールで50m、体操は鉄棒をがんばります。

蓮太郎さん

たいそうでは「まえまわり・パー」、スイミングでは「クロール」をがんばります！



松本 幹太さん

むさしグローバルコミュニティセンター  
水泳教室在籍生

バタフライをレベルアップしてカジマガロワッペンを目指します！



今村 安寿さん

YMCA尾ヶ石保育園  
園児

連続逆上がりができるようになりたい！おともだちといっぱいおにごっこをしたいです！



中川 心琥さん

専修学校熊本YMCA学院  
医療秘書科2年生

人とのつながりを大切に、相手に寄り添える医療秘書を目指しています。



江藤 悠奈さん

YMCA黒川保育園  
園児

体操教室で飛び箱を飛べるようになりたいです。廃材遊びも楽しみです！



原 弥咲さん

みなみ／グローバルコミュニティセンター  
サザンスクール在籍生

体操でレッドワッペン、英語ではCranesをとって、友だちとなかよく！



吉富 寿人さん

熊本YMCA学院  
精神保健福祉学科 通信制 修了生

精神保健福祉士合格を励みに、より多くの人を支えられる専門家を目指していきます!!



吉田 凜さん

Outdoor Club ACTIVEクラスメンバー

FUN、ADVENTUREクラスのお手本になりたい！



豊岡 ふみ子さん

ながみねファミリーセンター  
フィットネス会員

水泳はもちろん、皆様とのつながりを通して社会貢献をしていけたらと思っています！



ハリタ ディッサナヤカ  
HARITHA DISSANAYAKAさん

専修学校熊本YMCA学院  
日本語科留学生 初級IIクラス

日本語をできるだけ上達させてJLPT N2に合格したい。将来は自動車業界で働きたい。



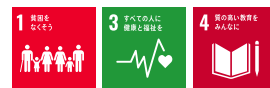
宮木 悠翔さん

益城町総合運動公園  
トレーニングルーム 学生スタッフ

BIG3 Total 600kg目指して頑張ります！

## R | E | P | O | R | T

## 募 金 子ども、若者たちのために 共に歩む募金活動

リソース推進委員長  
森博之

熊本YMCAは2025年11月から2026年1月にかけて「こども・若者・国際協力」をテーマにYMCA年末募金に取り組みました。募金の使途の一つであり、経済的困難を抱える子どもたちのYMCAプログラム参加費を減免するBAPY基金では、2025年度はのべ72名の子どもたちに様々な経験を提供することが

できました。また、熊本YMCA学院の学生や留学生に対する進学支援等も行っています。

2月27日(金)に開催したYMCA年末募金感謝会では、子どもたちがBAPY基金を利用してYMCAの体操や水泳教室に通っている児童養護施設の藤崎台童園、熊本天使園の職員から施設で暮らす子どもたちが様々な社会経験をする重要性が語られ、地域と共に取り組む募金活動の意義を再確認する時間となりました。



藤崎台童園の職員が子どもたちの様子を報告

## 協 働 地域と共に リフレス・チャリティーフェスを開催



リフレスおおむた 藤川登士郎

2月21日(土)にYMCA年末募金のチャリティーとしてリフレスおおむたで「リフレス・チャリティーフェス」を実施しました。はじめてのチャレンジでしたが、高校生ボランティアによるサポートのもと、日ごろからリフレスおおむたを利用している新体操クラブやHIP HOP教室の発表会、地域の皆さんが作ったお弁当、お菓子や野菜の販

売、キッチンカー、のみの市、地元タレントのステージ等、多彩なプログラムを実施できました。

益金はすべて熊本YMCAの年末募金に充てられました。リフレスおおむたは熊本YMCAが大牟田市から指定管理を受け、運営を開始して今年で20年目になります。その節目に地域の皆さんにYMCA年末募金活動への協力が得られたことは本当に大きな収穫となりました。今後も地域とのつながりを大切に、歩みを進めていきたいと思ひます。



## 交 流 バス旅行 留学生らが日本の遊園地を体験

熊本YMCA学院 日本語科  
尾道一幸

熊本YMCA学院日本語科が卒業式を3日後に控えた3月10日(火)にバス旅行を実施しました。11カ国という多国籍の学生総勢128名が熊本県荒尾市の遊園地であるグリーンランドへ。10時の開園直後に入園し、約3時間半、様々なアトラクションを体験しました。

快晴に恵まれ、ジェットコースターに乗って地上

にいる職員に手を振ったり、大観覧車から見える日本の風景に見入る姿もあり、充実した時間を過ごしたようでした。

留学生たちからは「卒業前に良い思い出ができました」「先生たちと一緒に遊ぶことができ嬉しかったです」などの感想が聞かれました。いつものクラスメイトとは違う学生同士と一緒に過ごす様子もあり、クラスや国籍を超えた交流の機会になりました。

熊本YMCA 総主事  
伊藤真太郎

マナ Vol.11

## ともだちになるために

3月11日、東日本大震災発生から15年という節目を迎えました。そして、この4月は熊本地震から10年という歳月を刻みます。東北と熊本、二つの大きな震災の記憶を繋ぎながら、私たちは今、新しい年度の歩みの中にいます。

宮沢賢治が残した「世界がぜんたい幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」という言葉があります。かつて訪れた宮城県の大川小学校の校庭に、この一節が掲げられていました。賢治が願った「全体の幸福」とは、単なるスローガンではありません。それは、目の前で泣いている子、孤独を感じている誰かの痛みを、自分のこととして受け止め、共に歩もうとす

る切実な祈りそのものです。

私たちは、日々の営みの中で、自分を「助ける側」、相手を「助けられる側」と無意識に分けてはいないでしょうか。しかし、圧倒的な現実の前に立った時、突きつけられるのは、人間の弱さや命の儚さです。本来この世界は、誰にも支配されず、誰も支配せず、互いの尊厳を称え合い、それぞれが与えられた賜物を分かち合う場所であるはず。だからこそ、私たちは自らの弱さや貧しさを受け入れ、「共に歩む人」として繋がっていく必要があるのだと思ひます。

ある無名の兵士が書き残した詩を思い出します。「大きなことを成し遂げるために、力を与えてほしいと神に求めたのに、謙遜を学ぶようにと、弱さを授かった。……求めたものは一つとして与えられなかったが、願ひはすべて聞き届けられた。私は最も豊かに祝福されたの

だ」。強くあることや成功を求めてしまいがちな私たちですが、震災という現実や日々の葛藤の中で手渡される「弱さ」こそが、誰かの痛みに寄り添うための大切な鍵になるのではないのでしょうか。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマの信徒への手紙 12章15節)。

この春、YMCA学院を卒業した学生たちが歌ってくれた「ともだちになるために」という歌を思い出します。人と人が出会い、心を通わせ、そのそばに立つこと。知識や技術以上に、その静かな営みの中にこそ明日への希望が灯っています。

15年、そして10年。あの日々を忘れず、弱さを知る者同士が出会う時、そこに「共に歩む」世界の小さな光が灯るのだと思ひます。この新しい年度も、祈りと感謝をもって、皆さんと共に歩み出します。

# それぞれの未来へ — 卒園・卒業の春

## 旅立ちとエールのメッセージ

### 専修学校 熊本YMCA学院



建築科、ホテル観光科、医療秘書科、健康スポーツ科、子ども保育科の学生らが門出を迎えた



卒業生

医療秘書科  
ジウケン  
時雨傑さん(中国出身)

クラスメイトと共に学ぶ中で、互いを尊重しながら協力することの大切さを学びました。熊本YMCA学院で、素晴らしい仲間と出会えたことを、心から誇りに思っています。



在校生

建築科 新2年生  
長谷宇隆さん

先輩方から学んだ「目標に向かいひたすらに努力する姿勢」、「困難を突破するために仲間と協力する力」の大切さを受け継ぎたいと思います。

### 専修学校 熊本YMCA学院 日本語科



9カ国からきた学生たち58名が新生活に向けて旅立った



卒業生

WILLS ONISHI TANISHAさん  
(ボリビア出身)

YMCAでの授業はいつも楽しく、様々な行事を通じて、日本の文化や世界中の人々とのつながりの大切さを学ぶことができました。



在校生

タパソム クマリさん  
(ネパール出身)

先輩方はいつも優しく私たちを助けてくださいました。目標に向かってがんばっている先輩方は私たちの誇りです。

### YMCA熊本五福幼稚園



19名の園児が卒園した



卒園児

神谷禾さん

幼稚園で泥だらけになってピチャピチャになったのも面白かったし、登り棒にも登れるようになって嬉しかったよ。小学校での登り棒にもチャレンジしたいな。



新年長児

河西莉李さん

年長組がやっていた組体操を自分たちがやるのが楽しみ!!友だちと力を合わせて、いろいろなことをしてみたい。たくさん散歩にいて、遠い所まで歩いていきたいな。

## Information

### 未就学児のための子育て広場わいわい

自然体験や学習体験活動を通して、子どもたちの思いやる心・知的好奇心を育て、生きる力と学ぶ力の土台をつくることに力を入れているYMCA水前寺幼稚園が未就園児の皆さんを対象とした「子育て広場わいわい」を年間を通して実施します。地域の子育て家庭を応援する場として、親子で安心して集い、交流できる機会を提供します。

5月1日(金)10:30~	端午の節句	6月6日(土)終日	わいわいまつり
6月15日(月)10:00~	オマチマンコンサート	7月3日(金)10:30~	たなばたまつり
8月4日(火)10:30~	縁日あそび	9月11日(金)10:30~	体育あそび

園YMCA水前寺幼稚園 Tel 096-362-4141(要申込み)

### 児童養護施設の子どもたちのために チャリティボウリング大会

企業と企業人の社会貢献を推進するYMCAフィランソロピー協会が児童養護施設の子どもたちの支援を目的にボウリング大会を開催します。

日 6月12日(金) 18:30~20:30 場 ボウリング王国スポーツ熊本  
内 1チーム4名 費 10,000円 問 Tel 096-353-6397(要申込み)



### 2026年度熊本YMCA定時会員大会

熊本YMCA会則第30条により熊本YMCA定時会員大会を開催します。参加のご案内は維持会員の皆様に別途お知らせします。

日 5月29日(金) 18:30~21:00(予定) 場 熊本YMCA本館/グローバルコミュニティセンターおよびサテライト会場 YMCA阿蘇キャンプ

日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 案 参加条件 持 持ち物 対 対象 催 主催 締 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

発行所/(公財)熊本YMCA  
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1  
TEL 096-353-6397(代)

発行人/伊藤 真太郎 編集/熊本YMCA ICR  
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



公式LINE

#### 熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動  
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

#### 2026年度基本聖句

ヨハネの手紙 - 3章18節  
子たちよ、言葉や口先だけではなく、  
行いをもって誠実に愛し合おう